

祝・幸田町の人口が4万人を達成！



▲認定証授与式の様子（写真の中央左が高井俊寛さんと裕斗くん、右が沙弥子さん）

平成28年2月4日、幸田町の人口が4万人を達成しました。

記念すべき4万人目の町民は、荻にお住いの高井俊寛さん、沙弥子さん夫婦の長男・裕斗くん（2月1日生まれ）。

2月15日に、町長応接室で認定証授与式が行われました。また、町内の株式会社エアウィーヴから4万人お祝いの品物としてマットレスの寄贈があり、記念品として贈呈されました。

大須賀町長は、「おめでとうございます。未来の幸田町を担うこの子たちのために、子育て支援の充実、安全・安心なまちづくり而努力していきます。」とお祝いの言葉を送りました。

父親の俊寛さんは、「自分にとってはおじめての子どもが4万人目になって、はじめはびっくりしましたが、みなさんにお祝いでいただいていたうれいんです。頑張って子育てをしたいと思えます。」と語られました。



▲4万人目の幸田町民となった裕斗くん（右）

幸田町 人口4万人達成までの歩み

昭和29年8月1日（町村合併）
人口約1万7千人

昭和45年7月1日
人口2万人

昭和54年3月31日
人口2万5千人

平成2年3月6日
人口3万人

平成17年4月21日
人口3万5千人

平成28年2月4日
人口4万人

大草保育園が最優秀園に輝く

『ソニー幼児教育支援プログラム』



受賞論文

【綿の種】出会いから始まる科学する心

平成26年12月15日、園児が割れた風船に繋がれた手紙を園庭で見つけました。手紙の送り主は兵庫県にある宇仁うに小学校の3年生でした。そこには、

「綿の種を送ります。」

と書かれていましたが、種は見当たりません。

「あれ？種、からっぽだよ。」

「落ちたのかなあ。」

「何色の種だろう？知りたいなあ。」
いろいろな思いを抱く園児たち。

「種がないよ！って手紙を書いて、お届けしよう。」

園児たちの好奇心から交流が始まり、「綿の種」を育てることになりました。

それから・・・

つづく

(論文からの抜粋)



「風船と手紙」との出会いから始まった「綿の種」を通じた小学生との交流のほかに、園児たちが秘密基地にキッチンを作りたいと考えたことから始まった「石のかまど・ピザ窯」作り、絵本で読んだ「ぐりとぐらのカステラ」作りなど、いろいろな出会いをきっかけに園児たちが持つ好奇心（「ハテナの心」）に保育士が上手に寄り添い、そして地域の人たちからも協力を得ながら、園児たちが活動する様子を考察した結果がまとめられています。審査講評でも、「子どもたちの好奇心を大切にしている。」と評価されました。

問合せ ごとも課 保育所グループ

(内線131)

